



平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

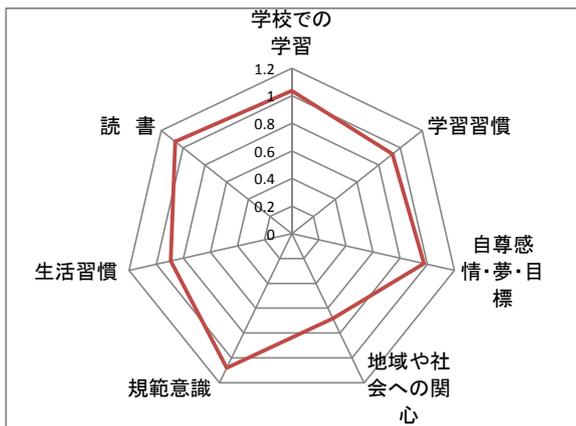
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析(傾向や特徴)	全国平均正答率との比較
国語A	・全体的には全国平均正答率をやや下回っていたが、言語知識理解は基礎ができていた。 ・話す、聞く力や書く力を問う問題に課題があり、考えの共通点や相違点を整理して聞くことや書くことを習慣化する必要がある。	下回っている
国語B	・全国平均正答率を下回っていたものの、登場人物の相互関係や心情、場面についての描写を捉える力が伸びていた。 ・文章の内容について、根拠を明確にして、自分の考えを書く問題に課題がある。	下回っている
算数A	・全国平均正答率を下回っており、二次元表の問題が特に無解答率が高く、誤答も多かった。 ・必要な情報を活用することが課題である。 ・小数と整数の加法の計算力向上のため、位の理解が必要であった。	下回っている
算数B	・全国平均に近づくことができた。応用問題に対しても、苦手意識をもたず、粘り強く取り組むことができるようになった。 ・とくに平均や割合についての数学的な考え方が高くなり、応用できるようになった。	同程度である

2 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

・全学級でのめあてと振り返りを意識した学習展開の工夫により、「授業中に目標(めあて)が示されている」や「授業の最後に振り返る活動をよく行っている」と感じている児童が増えている。
・「地域の行事に参加している」や「地域・社会の出来事に関心がある」児童の割合が減っている。PTAや地域と連携しながら、児童・保護者に啓発するとともに、地域とのつながりの大切さを価値付けることが必要である。
・将来の夢や希望をもっている児童は全国と同じくらいいる。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。

3 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

全校では、学習の流れを明確にしなが、どの教科においても自分の考えを書く時間を設定する。
学年では、既習学習の見直しや補充ができるように、朝自習・家庭学習を中心に基礎基本定着シートを活用する。
学級では、日々の学習や単元末テスト、基礎基本定着シートなどを活用して、学級の課題を明確にとらえて指導し定着を図る。

② 家庭生活習慣等に関する取組

日々の学級指導だけではなく、学級活動や学校行事の中で、とくに「日常の生活や学習への適応」や「健康安全行事」と関連付けながら、継続的に児童へ指導していく。学校(学級)通信や保健だより等を通して、学習習慣・生活習慣の見直しと改善を保護者へ啓発していく。